

精神保健福祉センターにおける アルコール健康障害対策関連の取り組み

第33回アルコール健康障害対策関係者会議
令和7年4月28日



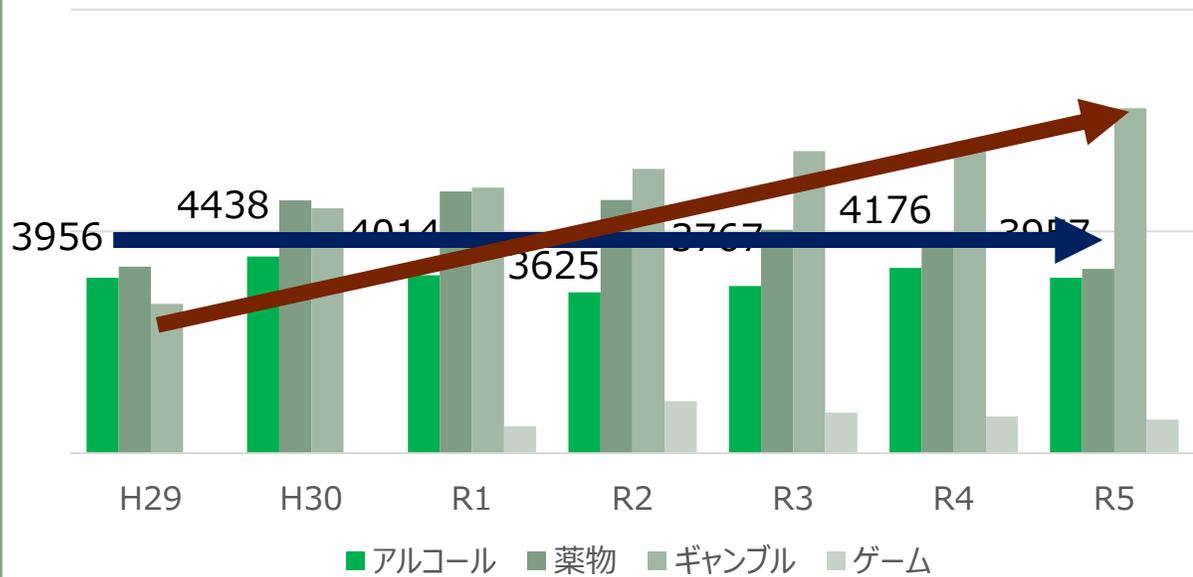
全国精神保健福祉センター長会 理事
依存症対策副委員長
山梨県立精神保健福祉センター 所長
志田 博和

内容

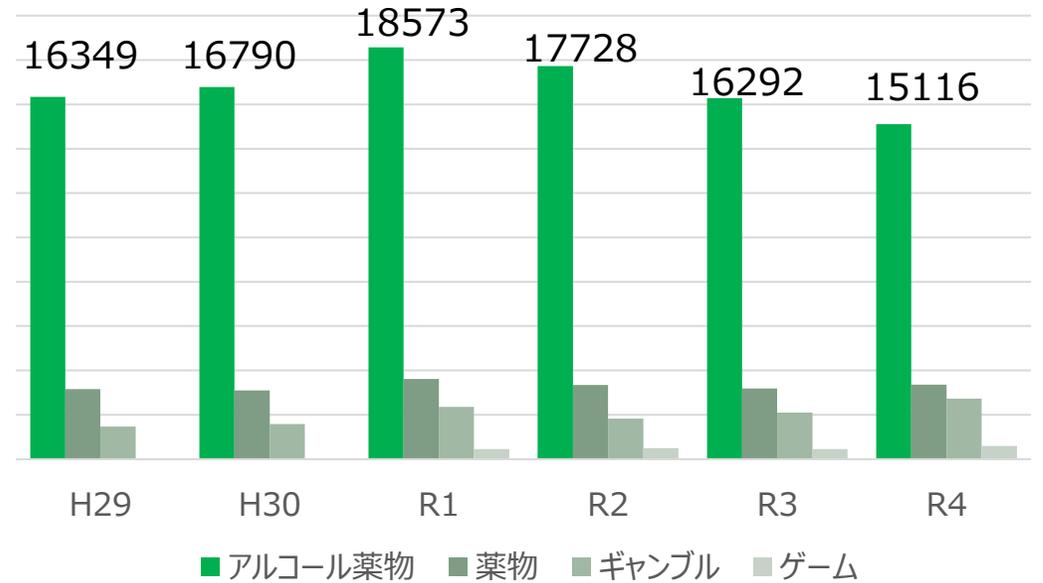
- 全国の精保センターの相談件数の推移
- 山梨県の相談件数の推移
- 全国的に精保センターがやっている取り組み
- センター長会としての取り組み
- むすびに

依存症相談数の推移

精神保健福祉センター



保健所

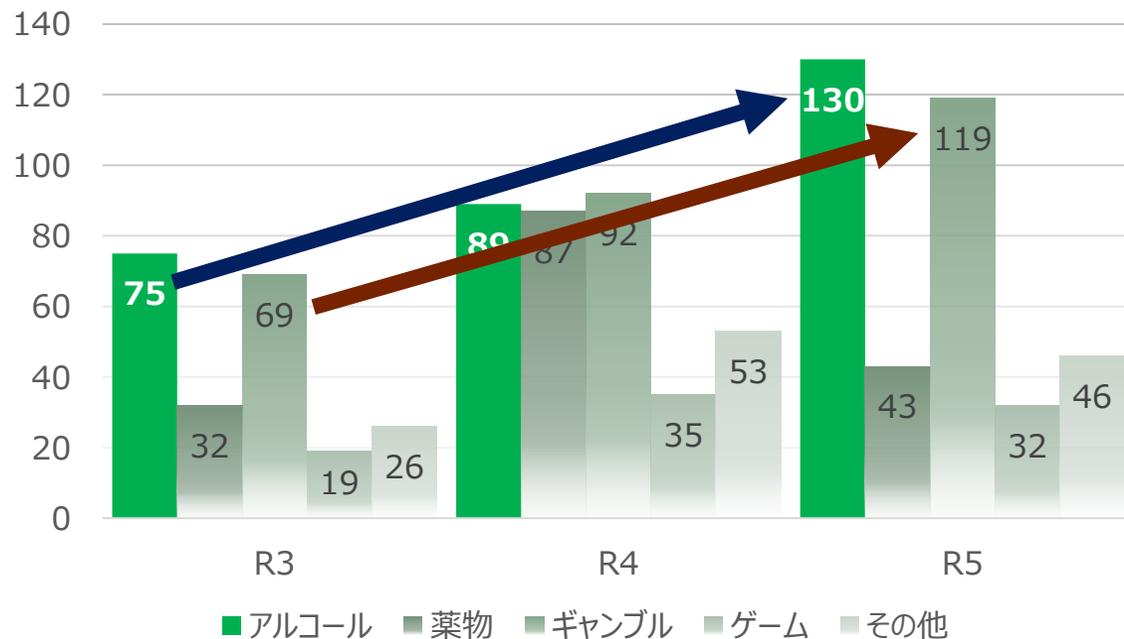


精保センターへの相談数は4000件前後で横ばい

アルコールは保健所→医療機関のルートがある

山梨県における推移

各種依存症の延べ相談数



- 山梨県はアルコールとギャンブルが増加
- 薬物関連の相談数は年度によりバラバラ
- ゲーム・ネット依存も想定より増えず
- その他：性、買い物、窃盗 etc

各精保センターの取り組み

当事者・家族支援

- 電話相談
- 個別相談
- 当事者グループミーティング
- 家族教室
- 診療所機能

連携構築

- 困難事例の検討
- 各種団体との連携会議
- 刑務所プログラムサポート
- 保護観察所プログラムサポート

研修・普及啓発

- 地域支援者研修会
- 学校での出前授業
- SBIRTsセミナー共催

調査

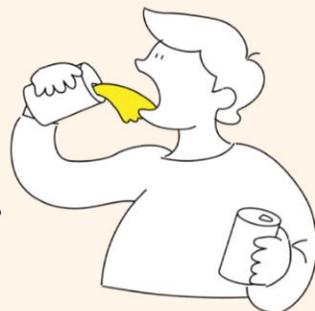
規模により取り組みには差

山梨県の取り組み

- 依存症全般の情報発信を目的としてターゲティング広告、専用HPの開設

山梨県依存症相談サイト

やめたいのに やめられない
もしかして、依存症?



もう、ひとりでがんばらないで。

自分は依存症かもと悩んでいるあなた
家族が依存症かもと不安を感じているあなた
その思いをお話してください。

私たちが、あなたとつながります。

山梨県立精神保健福祉センター
依存症相談窓口

055-254-8644

秘密は守られます。安心してご相談ください。



実際どんな依存症があるんだろう?



電話で相談する
Tel 055-254-8644



メールで
お問い合わせする

アルコール依存症

人間関係や生活の悩み、あるいは寂しさや、不安などを感じた時に、憂さ晴らしや気分転換のつもりで「酔い」の心地良さを求めるうちに、飲酒が習慣になっていきます。

やがて徐々に酒量が増え、時間や場所を選ばずに、どんなことをしても飲酒したくなるなど、自制がきかない状態になるとアルコール依存症の疑いがあります。アルコール依存症はさまざまな病気を引き起こす可能性があるだけでなく、仕事や家族などにも悪影響を及ぼしたり、事故などにつながる恐れもあります。

しかし当事者は依存症という病気を認めたくない傾向にあるため、まずは異変に気づいたご家族など、周囲の方から専門機関にご相談ください。ご家族だけで支えようとせず、回復支援施設や自助グループなどにつながることで回復に向かう出発点になります。



依存症サポーター養成研修

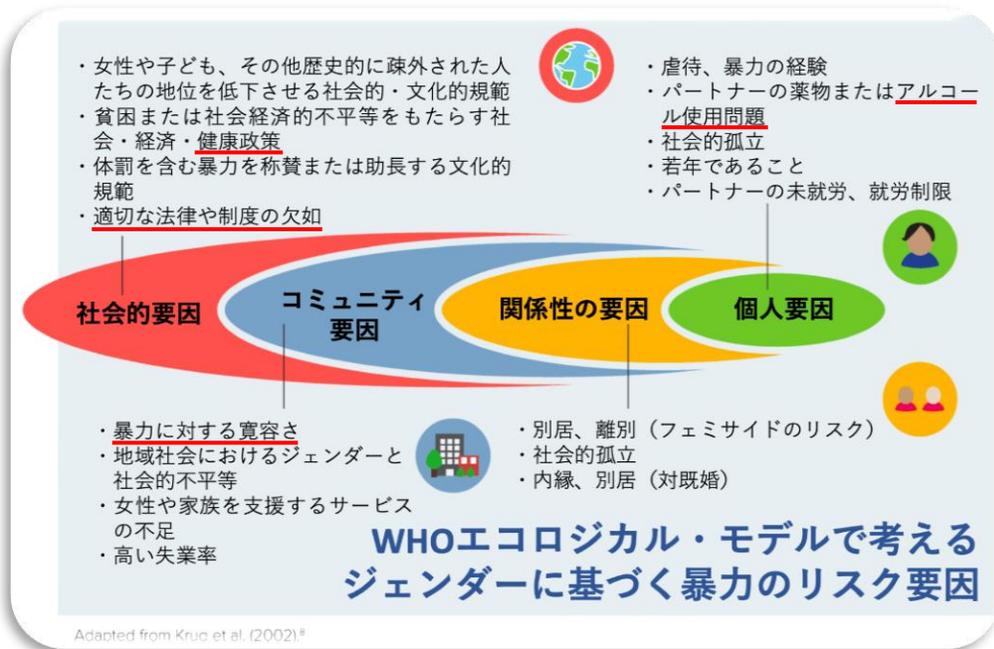


- 「心のサポーター要請講座」に30分の依存症当事者のメッセージを追加
- こころの不調に悩む身近な方をサポートする 知識やスキルを学び
- 依存症当事者の生の声を(たぶん初めて)聞くことで、スティグマの解消へつなげたい
- 感想
 - 「依存しているものをやめれば解決だと思っていた(けど違うことに気がついた)」
 - 「昔、今日の知識があれば、と思った」
 - 「自分と重なる部分もあり共感できた」

概ね受講者の感想は良好

全国センター長会としての取り組み

- Trauma and Violence Informed Careの啓発
- トラウマの防止、共生社会の醸成
- 精神不調＝「持って生まれた心のパワー」×「環境因子」
- ACEという形で世代間伝達させない関わりが重要



トラウマインフォームドケア（TIC）は、トラウマの影響やそれが及ぼす健康や行動との密接な関係を理解することを通し、ケアを必要とする人々に安全をもたらすことを目的としています。

トラウマに特化したケアとは異なり、人々のトラウマ歴を聞きだしたり治療したりすることではなく、すべての人がさらに傷つくことがないように、安全な空間を作り出すことを目指します。このような安全の確保は、トラウマを開示するための環境をもたらしますが、開示してもらうことは目的ではありません。

- TICは、トラウマの影響やそれが及ぼす健康や行動との密接な関係を理解することを通し、ケアを必要とする人々に安全をもたらすことを目的としている
- TVICは、TICの概念を拡大し、暴力や社会構造的な不公平(構造的暴力)が人々に与える影響を強調
- これにより、直接のトラウマ体験のみならず、社会構造によって二次的にもたらされる構造的暴力やスティグマが依存行動を維持しているという視点をも提供し、トラウマを抱える人の問題は、社会環境にも存在することを示す



むすびに

トラウマに向き合い、世代間伝達を断ち切る

- 『不登校(ひきこもり)→依存症→自殺』をブロックするには「成人年代から」では遅い
- 産まれる前からのアプローチが必要
- 母子ケアから、制度がしっかりしているうちに介入しないと間に合わない
- ACEを見逃さないことで、不適切養育、不登校などをスルーしない社会に
- 次の世代に、依存症につながる脆弱性を持ち越させない社会へ

現行法制度の中で児相も関われると思います

ここをきちんとしておかないと…

依存の木が生えてくる

モノに対する依存

アルコール
薬物

コト(行為)に対する依存

ネット
ゲーム
ギャンブル

ヒトに対する依存

性依存
ホスト通い
強迫的性行動症

過食嘔吐
ダイエット
(摂食障害)

枝を切っても、他の枝が伸びるだけ

根から枯らすためには、健全な自立(相互依存)が必要

ギブアンドテイクの関係になる(成長)

あと、どこかで蓋が必要では？

吐くまで飲むのはOUTですよね?!

公衆衛生

ウイルス感染?

観光立国

景観問題

ご本人さんの生命

身体疾患?

倫理

子どもの教育

タバコはもうダメです

何でアルコールによる嘔吐はスルーされているのか

理由は何であれ

嘔吐している人をスルーしない社会へ...科料? 拘留?

ありがとうございました